

リハビリテーション科

上田孝文

急性期総合病院における当科の役割として急性発症後の早期機能回復、外傷後または外科術後の早期機能回復を目的に主科の医師、看護師などと連携をとりながら理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3部門が超早期から積極的に介入している。機能回復に時間がかかる疾患については最善の状態の後継病院へ引き継げるように、また外科術後などでは自宅退院を目指して最大の機能回復を図っている。

リハビリテーション科の診療体制は当科の専従医師による障害診断と理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの治療的特性に合わせた処方が出され、治療は各専門職の療法士が担当している。

平成25年度の療法士のスタッフ体制(26.3.31現在)は17人体制で、うち理学療法士10人、作業療法士4人、言語聴覚士3人である。

リハビリテーション科へ依頼される診療科は整形外科、総合内科、脳外科、救命科、外科、循環器科、消化器科、心外科、感染内科(HIV)などほぼ全科に渡る。

例えば整形外科からは特に人工関節(股・膝関節)や脊椎術後患者ではクリティカルパスに基づいて良質で均質なリハを実施し、在院日数短縮とQOL向上を両立している。特に人工膝関節置換術患者は術前から退院後まで筋力ADLを評価し、術後3週間で退院できるように短期集中型治療を行っている。また総合内科からは脳血管障害、脳外科からは脳腫瘍、頭部外傷術後、小児脳神経外科からは先天性中枢神経異常など幅広い障害に対応している。両科とも脳卒中ケアユニット(SCU)から一般病棟まで関わり、定期的なカンファレンスで患者の早期治療方針決定と最良な状態で後継病院に円滑に連携できるよう実施している。これらには理学療法、作業療法、言語聴覚療法が適用となる。

理学療法は徒手または機械器具で四肢・体幹の運動機能回復を図り、ベッド上の起居動作、移乗動作、歩行から階段昇降動作などの移動動作の回復に適した技術である。他には、呼吸障害に対しても適用がある。

作業療法は作業を治療手段とする特性から上肢の運動機能回復、特に手指などの細かな運動や持久力の回復を図り、食事、排尿・排便などのトイレ動作、更衣、整容、入浴などの日常生活活動(ADL)の回復に適した技術である。これが理学療法との役割分担の違いである。特に急性期からでも食事とトイレ動作の生命維持に関わるADLの回復が重要

となる。他にはADLに関わる高次脳機能障害に対しても適用がある。

言語聴覚療法は主に脳疾患から由来する失語症、構音障害などの言語障害や摂食嚥下障害の回復に適した技術で、これの障害に対するアプローチのほかに高次脳機能障害の

評価、未破裂動脈瘤、脳腫瘍、水頭症などの術前評価、頭部外傷後遺症の評価などを行い、必要に応じてこれらに対する治療や援助にも取り組んでいる。

病院全体として在院日数短縮化の方針の中で、現在はリハビリテーション科のスタッフも徐々に充実してきており、まだ十分ではないが当院の急性期リハビリテーションのニーズに応えられるようになってきている。

今後は更にチームアプローチとして各部門が充実したリハビリテーション医療と在院日数短縮化が両立できるノウハウを確立することが当面の課題である。効率のよいリハ治療を短期間に実施し成果を上げることが出来るプログラムの開発は大きな研究テーマである。

現在のところリハビリテーション科全体としての研究テーマが検討されているわけではないので、各部門が興味のある範囲で努力しているところである。平成 25 年度は主演者発表では国内学会 3 題（うち理学療法部門が 1 題、作業療法部門が 2 題）、共同演者発表では国内学会 7 題（理学療法部門）となっている。合計で 10 題の学会発表があった。

文責 井端康人

【2013 年度研究発表業績】

B-4

廣田千香、高橋佑太、川島拓馬、関根一真、原田尚子、宮尾直樹、宮川哲夫、田中一正：歩行試験後の SpO₂ 回復時間と呼吸機能の関係。第 23 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 東京、2013 年 10 月

高橋佑太、川島拓馬、廣田千香、関根一真、原田尚子、都賀誠二、宮尾直樹：安定期 COPD 患者における Incremental Shuttle Walking Test の制限因子の評価。第 23 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 東京、2013 年 10 月

藤本由香里、沖侑太郎、松村拓郎、河島常裕、廣田千香、金子弘美、大平峰子、石川朗：COPD 患者の 6 分間歩行試験と歩行中 Desaturation 評価の重要性の検討。第 23 回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 東京、2013 年 10 月

正木貴宣、本田玲子、米沢久子、金子厚子、斉藤有紀子、廣田千香、原田尚子、宮尾直樹：当院ドック健診センターにおける COPD と血液検査の関連性。第 54 回日本人間ドック学会学術集会 静岡、2013 年 8 月

宮尾直樹、原田尚子、関根一真、高橋佑太、川島拓馬、廣田千香、鈴木修：腫型 COPD 患者における吸気・呼気胸部 CT の肺容積変化率と血中 BNP 値の関係。第 54 回日本呼吸器学会学術講演会 東京、2013 年 4 月

関根一真、宮尾直樹、高橋佑太、川島拓馬、廣田千香、原田尚子、鈴木修：COPDにおける吸気・呼気胸部CTの肺容積の吸気、呼気変化率とCOPD病分類の比較検討。第54回日本呼吸器学会学術講演会 東京、2013年4月

原田尚子、宮尾直樹、関根一真、廣田千香、川島拓馬、高橋佑太、阿部純久、鈴木修：COPD患者における呼吸リハビリテーションの効果。第54回日本呼吸器学会学術講演会 東京、2013年4月

藤本由香里、河島常裕、廣田千香、沖侑太郎、松村拓郎、石川朗：慢性閉塞性肺疾患患者の重症度と6分間歩行試験中の酸素飽和度の関係。第38回日本運動療法学会

村川雄一朗、竹林みよ子、高畑進一、押田奈都、埜中正博：覚醒下開頭腫瘍摘出術における作業療法士の介入意義。第47回日本作業療法学会、大阪、2013年6月

村川雄一朗、竹林みよ子、押田奈都、埜中正博、寺田志津子：頭部外傷後後遺症を呈した児に対する作業療法の経験。第41回日本小児神経外科学会、大阪、2013年6月